

目的 住宅地のイメージ評価に影響を与える要因としては、住宅地の物理的特性に加えて居住歴など被験者の社会的属性が考えられる。一方、住宅地のイメージ因子としては、関連研究において都市性因子・新しさの因子・開放性因子・落ち着き因子などが指摘されており、影響要因として社会的属性の中でもとりわけ生活意識に着目することができる。本報は、若者を対象として生活意識と住宅地イメージとの相関分析を試み、社会的属性がイメージ形成に及ぼす影響の一端を捉えようとするものである。

方法 盛岡市内における新旧4住宅地10ヶ所を対象とし、SD法によるイメージ調査とともに生活意識に関する自記式質問紙による41項目に関する調査を実施した。生活意識の因子分析による意識のパターン化を試みたのち、住宅地イメージの因子得点パターンとの対応を検討した。被験者は岩手大学学生101名、調査期日は1991年10月である。

結果 生活意識に関する因子分析により10因子が抽出され、因子得点に基づくクラスター分析の結果、被験者を6群に分類することができた。さらに、住宅地のイメージに関する分析により洗練性・親密性・多様性・開放性・情緒性の5因子が抽出され、各住宅地のイメージの特徴を明らかにする中で、住宅地形成の新しさと洗練性、居住地域と親密性、歴史的街並みと多様性、新興住宅地と開放性とのかわりかかわりが認められた。一方、生活意識とイメージ因子との関連は意識パターンにより異なり、社会活動志向と高級住宅地の親密性、さらに新興住宅地においてはグルメ志向と親密性、目的意識と情緒性などの関連が確認された。なお歴史的街並みと生活意識との関連は認められない。